

海外の話題

日本産農林水産物・食品の輸出イベントへの初めての参加について

農林中央金庫 北京駐在員事務所長 森下 純也

当地北京でも日本食人気が高まっている中、3月17日に北京所在の在中日本大使館（以下，“大使館”）にて初めての「日本食材・食品宣伝展」が開催され、農林中金北京事務所（以下，“北京事務所”）は唯一の協賛者としてイベント全体をサポートすると同時に米ブース出店を行った。

これまでの大使館イベントは商業色を排し、日本文化紹介を主目的としたものであったのに対し、今回は、各出店者による販促活動（金銭受渡しは禁止だが、販売店舗の明示やEコマース・サイトへの誘導可能等）を推奨し、来客者も購買力の高い富裕層やネット販売への影響力が強いパワーブロガーを主体とする等、販売増加効果が大きい期待出来るイベントとして企画された。北京事務所は実質的な輸出促進につながる事に着目し、今回イベントを企画した大使館の呼び掛けに応じて、オールジャパンとしての取組みをサポートするためのイベント全体サポートと日本産米輸出促進の取組みを行う事とした。

こうしたイベントに参加するのは、北京事務所としても、私自身も初めてであったため、何から準備してよいのかもよく分からない状態であったが、昨年開催された日本秋祭の対応等、経験豊富な農林中金香港事務所や関係各部のサポートを受けて、北京事務所総出の対応により何とかイベント当日に間に合わせる事が出来た。

北京事務所が運営する米ブースには全国農業協同組合連合会の北京事務所と他日系企業に参加して頂き、日本産の炊き立てご飯とご飯に合う惣菜の試食、日本産パック米の配布を行った。「日本のお米はすごく美味しい。どこで買えるのか」という意見が聞かれる等、来場者の意見は好意的なものが過半であったものの、

「他の試食を色々食べた後だと、ご飯の味がどうだったか忘れてしまう。」という声もあり、日本産米の美味しさをどのようにアピールし、実際の販売につなげるかという点では今後も改善の余地があると感じている。

日本同様、ご飯を食べるとは言っても食習慣の異なる中国市場での日本産米拡販がそれほど容易ではない事は事実であろう。ご飯は、水餃子、包子（まんじゅう）、麺等の他の主食と競合するものであり、仮に主食としてご飯が選ばれたとしても、値段の高さから日本産米

ではなく、中国産米や他国産米が選ばれる事も考えられる。

それでも今後に大きな可能性を感じるのは、日本への旅行経験者増加と日本食人気の高まり、食の安全を求めるミドルクラス成長、等のプラス要因が最近3年程度で見ても急速に強まっているのを実感しているためである。

北京の街中にも随分と日本食レストランが増え、中国国内でも人気の“深夜食堂”を模した店舗も展開されている。大抵の日本食は中国の食材で作れるし、現に作られているものの、本物志向の富裕層も多いため、「日本には年に何回も旅行に行く。旅行に行くたびに自宅用や友達にあげるためにお米を買って来る」という声も聞かれる。今後益々、中国における日本製品の人気が高まれば、現在も続いている10都県からの輸入禁止等、日本からの農林水産物・食品輸出の障害となっている各種規制緩和を求める声が中国国内からも強まるかもしれない。

イベント会場にて、普段からお世話になっている食品、流通、レストラン関係の方や大使館の皆さんと一緒に食輸出拡大に取り組むのは非常に楽しい経験であった。オールジャパンで頑張ろうという非常に良い雰囲気が当地にて強まっており、同じコンセプトのイベントは今後も企画される予定である。出店等ご興味がおありの方は、北京事務所までぜひご連絡下さい。